



秋田をこくる建設人

Vol.05

施工管理(土木)

岩淵 安寿子さん(30代)

(株)佐藤庫組[北秋田市]

キャリア 19年



自分らしく働く  
背伸びせずプロフェッショナルに  
コミュニケーションの基本は笑顔



信頼の厚いリーダーとして、現場をまとめる岩淵安寿子さん。彼女が現場に現れると、周りの皆が自然と笑顔になる。土木工事の現場において、女性の現場監督はまだまだ少ないのが現状だ。笑顔でイキイキと働く岩淵さんに、建設業の魅力や働き方を聞いてみた。

### 仕事の「やりがい」は?

やはり自分が携わった構造物が形として残ることですね。少し前に開通した\***鷹巣西道路整備工事**では監理技術者として携わりましたが、完成した時の「できた!」という達成感は格別です。できたばかりの道路を走るの、苦勞したことも全部忘れてしまうくらい爽快ですよ!作業中に沿道から声をかけてもらうこともあり、日々のやりがいにつながっています。豪雨災害時には会社をあげて復旧作業にあたることもあります。地域のインフラ整備に携わる地元企業の一員として、責任と誇りを感じています。

### 建設業界に入ったきっかけは?

高校生のとき、女性技術者を採用したいと会社から声をかけてもらったことがきっかけですが、一番の理由はその時に見学した「現場」です。国土交通省の河川工事で、そのスケールの大きさに圧倒され、「建設業ってすごい!」と感動しました。初めて現場監督を任されたのは、入社4年目の下水道工事です。いざ責任者として現場に入ると、分からないことばかり。周りに「教えて下さい」と頭を下げ、ひとつひとつ教えてもらいました。現場が終わると会社でのデスクワークが待っています。測量も担当していたので、座標計算の仕事も多くて…。今はパソコンで座標を入力して計算しますが、当時は測量電卓を使って計算する時代。毎日クタクタでしたね。

### 入社当初と比べて、変化した点は?

「働き方」は、出産や子育てを機に変わりましたが、何より会社がバックアップしてくれました。産休と育休の制度をフルに活用したのも、時短で働いたのも私が初めてと聞いています。仕事は「限られた時間の中で集中して終える!」と決め、以前より余裕をもってスケジュールを組むようになりました。土木とひとことで言っても工事の種類、工法は様々です。まだまだ至らない点もありますが、今となっては質問される立場。チームメンバーに信頼してもらうためにも、常に新しい技術や知識を学ぶ姿勢を持ち続けなくてはと思っています。

キャリアアップ

CAREER UP

2003年

入社

2009年(7年目)

2級土木施工管理技士 取得

2009年1月 長男出産

(2008年12月~2010年1月まで産休・育休)

2014年(12年目)

2級舗装施工管理技術者 取得

2018年(16年目)

1級土木施工管理技士 取得

2012年4月 次男出産

(2012年3月~2013年4月まで産休・育休)

2014年11月 長女出産

(2014年10月~2015年11月まで産休・育休)

### ココロに残っているプロジェクト

\***鷹巣西道路整備工事**

(2019~2020年)

工事の工期も長く、スケールも大きい空港道路の工事。複雑な工程を複数の建設業者と協力して進めるため、監理技術者としての腕が問われた。



岩淵 安寿子さんの  
もうひとつの  
物語

### 家族みんなで野球の応援に!

息子さん野球部に所属している岩淵さん。練習や大会のサポートや送り迎えもあり、毎日忙しい。会社の協力もあり、仕事は定時で終わらせて子ども達を迎えに行く。「ユニフォームが汚れていない日は『ホントに練習してきたの?』と言ってしまふんですね。職業柄かな?近々大会があるので家族みんなで応援に行くんですよ」と、嬉しそうに話す。野球を頑張るお子さんの姿に、岩淵さんが元気をもらっているようだ。

